

【高齢者対象アンケートの分析結果】

～ 高齢者の「幸福度」は、何と関係しているのか？ ～

男性は「配偶者」、女性は「経済的・精神的自立度」に関係。

また、幸福度の高い人と低い人の差は、年をとるごとにその差が拡大。

高齢者のライフスタイルの充実について調査・研究・提言する特定非営利活動法人「老いの工学研究所」（大阪府中央区、理事長：西澤一二、<http://oikohken.or.jp/>）は『第2回“充実した老い”の実現に関するアンケート』を実施し、結果がまとまりましたのでお知らせ致します。

実施時期	: 2013年2月
実施方法	: 郵送
回答者	: 234名（男性101名、女性133名）
回答者の平均年齢	: 男性72.8歳、女性69.4歳
設問数	: 71問

【アンケート結果のポイント】

1. 高齢男性の幸福度は、配偶者に左右される。

幸福度が高かった（80点以上）男性のうち、約8割が配偶者と同居。逆に、「一人暮らし」は、わずか4%となった。
「今の配偶者と結婚して良かった」と回答した割合も8割を超え、幸福度の高かった女性の約6割を大きく上回った。

2. 高齢女性の幸福度には、『経済面での安心と、精神的自立度』が影響。

幸福度が高かった（80点以上）女性は、結婚状況や配偶者よりも、経済的な不安がないことが大きい。また、自分に自信を持って前向きに生きる、といった精神的な自立度も女性の幸福度に影響している。

3. 幸福度の高い人と低い人の差は、年をとるごとにその差が拡大していく。

現在の幸福度が高い人（80点以上）と、低い人（80点未満）の差は、若い頃から固定的なものではなく、年をとるごとに徐々にその差が開いた結果である。

4. 高齢者の幸福度に関係しているのは、経済面や健康面だけではない。

現在の幸福度が高い人（80点以上）と、低い人（80点未満）の差は、お金や健康だけでなく、考え方や価値観、生活姿勢、夫婦関係など様々な要素が関係している。

1. 男性の幸福度を左右するのは、配偶者。

幸福度を 80 点以上とした人たちの同居家族数と結婚の状況は、以下の通りとなりました。

	男	女
配偶者と同居	78%	46%
結婚して別居	4%	0%
離婚	4%	9%
死別	12%	39%
未婚（結婚経験なし）	0%	4%

同居家族 0 人（1 人暮らし）	4%	32%
同居家族 1 人	57%	46%
同居家族 2 人	18%	9%
同居家族 3 人以上	18%	9%

幸せだと感じている人達のうち、配偶者と同居している割合は、男性の約 8 割に対し、女性では半数を下回っています。また、一人暮らしでも、幸せだと感じる男性の割合は、女性の 8 分の 1 しかありません。

	男	女
今の配偶者と結婚して良かった	84%	61%

「今の配偶者と結婚して良かった」という質問への回答も、男女で差がついており、高齢男性の幸福度は、結婚や配偶者の存在に大きく関係していると考えられます。

2. 女性の幸福度を左右するのは、「経済面での安心と精神的自立」。

幸福度 80 点以上の女性と、80 点未満の女性で、回答結果に大きな差があった（はいと回答した割合に 20 ポイント以上の差があった）質問は、次の通りとなりました。

	幸福度-高い	幸福度-低い	差
この先 経済的不安はない	65.7%	42.3%	23.4%
年金以外に 十分な収入がある	42.5%	19.2%	23.3%
健康状態に不安はない	57.7%	34.6%	23.1%
他人をうらやましいと思ったことがない	50.0%	29.5%	20.5%
死に対する恐れや不安がない	37.2%	17.1%	20.1%
子や孫から尊敬されている	40.4%	20.4%	20.0%
愛すべき存在である	36.5%	16.5%	20.0%

経済的な面、健康面での安心が上位 3 項目を占めています。

4 番目以降については、幸福度の高い人たちが、「他人との比較ではなく、自分の基準に基づいて堂々と生きる様子」、また、「老いを受け入れ、自分を肯定的に見ながら、自信を持って生きる様子」が感じられ、精神的な自立を獲得しているかどうかの影響していると考えられます。

3. 幸福度の差は、年とともに差が大きくなっていく。

アンケートでは、これまでの人生を振り返って頂き、各年代における幸福度を100点満点で評価・採点していただきました。現在の幸福度が80点以上の人たちと、80点未満の人たちの、各年代の平均点とその差は次のように推移しています。

	幸福度-高い	幸福度-低い	差
40歳代	75.9点	66.0点	9.9点
50歳代	81.5点	63.9点	17.6点
60歳代	87.3点	65.4点	21.9点
70歳代	89.3点	65.5点	23.8点
現在	91.9点	58.5点	33.4点

これを見ると、現在の幸福度の差は、若い頃から存在していたものではなく、年とともに拡大していていることが分かります。

「若い頃の努力や苦労が、年をとったときの幸福度に影響する」と考えることもできますが、幸福度は各々の主観、捉え方次第であるため、同じ状況でも幸福と感じるか、不幸と感じるかは人による面があります。従って、幸福度の高い人は、年とともに「欲を抑える力」や「不安や不便を受け入れる度量」を身に付けていっているのではないかと考えられます。

4. 幸福な老いには、お金と健康だけではなく、考え方や価値観も影響。

「現在の幸福度」と「老いの価値（若い頃になかった良さ）」の両方が80点以上であった人達<A>と、両方が80点未満だった人達を比較し、回答結果に大きな差があった（はいと回答した割合に20ポイント以上の差があった）質問は、次の通りとなりました。

	A	B	差(A-B)	内容
1 この先 経済的不安はない	59.0%	23.3%	35.7%	経済面
2 しっかり若手に引き継いだ	69.5%	35.0%	34.5%	考え方・価値観
3 健康状態に不安はない	54.3%	20.0%	34.3%	健康面
4 引退は、新しい価値観でスタート	67.6%	35.0%	32.6%	生活姿勢
5 死に対する恐れや不安がない	46.7%	15.2%	31.5%	考え方・価値観
6 子は経済的に独立している	70.5%	40.0%	30.5%	経済面
7 前向きに取り組んでいることあり	72.4%	43.3%	29.0%	生活姿勢
8 意見や考えは、周囲に左右されない	60.0%	31.7%	28.3%	考え方・価値観
9 他人をうらやましいと思ったことがない	54.3%	28.3%	26.0%	生活姿勢
10 夫婦円満だった	57.1%	31.7%	25.5%	夫婦関係
11 若い世代より幸福だ	60.0%	35.0%	25.0%	考え方・価値観
12 季節感を取り入れて生活をする	70.5%	46.7%	23.8%	生活姿勢
13 今の配偶者と結婚して良かった	71.4%	48.3%	23.1%	夫婦関係
14 体力に自信がある	46.7%	25.0%	21.7%	健康面
15 子や孫から尊敬されている	38.1%	16.7%	21.4%	考え方・価値観
16 健康維持を考えて食べる	65.7%	45.0%	20.7%	健康面
17 日本の未来は 決して暗くない	40.0%	20.0%	20.0%	考え方・価値観

Aを幸福な高齢者、Bを幸福でない高齢者とした場合、その差は、一般によく言われる経済面や健康面だけでなく、考え方や価値観、生活姿勢、夫婦関係など多様な要素によって生じていることが分かります。

<本件に関するお問い合わせ先>

特定非営利活動法人「老いの工学研究所」
大阪府大阪市中央区伏見町四丁目2番14号
事務局 春田 美砂子
TEL：06-62231-0001
E-mail：info@oikohken.or.jp